

I 福祉科教員養成課程

1 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

社会の激しい変化に備えて広い視野をもち、生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に対応し、その個性の伸長を最大限に図る教育が求められている。日本の高等学校では、特色ある学科・コースづくり、選択制の科目設置などの改革が実施され、多様性と充実さを兼ね備えたカリキュラム編成が進められている。

日本社会事業大学は、社会福祉の指導的従事者を養成する大学として、先導的な試みを取り入れてきた。福祉科教員養成課程にも、その精神はしっかりと行き届いている。新しい時代を担う学校教員としての使命感を育むために、以下のような養成教育を行っている。

一つめに、教科専門科目群には、最先端の社会福祉学の成果を反映した確かな専門科目を設置している。すべての学生が、社会福祉士の国家試験受験資格を取得しており、生徒や保護者に関わる困難な課題に対応できる教員の資質を養成している。

二つめに、生徒の成長・発達への深い理解を促すために、豊かな教職経験と鋭くしなやかな現場感覚を持った講師陣による「教職概論」「生徒指導論」「特別活動論」等の教職科目群を設置している。

三つめに、教科「福祉」のみならず、教育課程全体の改革動向を広く見渡せる力量を養うために、「教育方法研究」「福祉科指導法」「教職実践演習」等の教科教育系科目群を少人数編成にて実施している。

とりわけ「教育実習」は、学校教員としての使命感を体得する教職課程の仕上げの場として重視している。実習生一人ひとりの生きた教育実践研究の機会として、事前・事中・事後にわたってきめ細かな指導を行い、実習協力校からのフィードバックによって教職課程の改善に努めている。

福祉科教員養成課程は、学校教員はもちろんのこと、学校教育支援者（スクール・サポーター）など、未来型の福祉教育従事者の養成をめざしている。